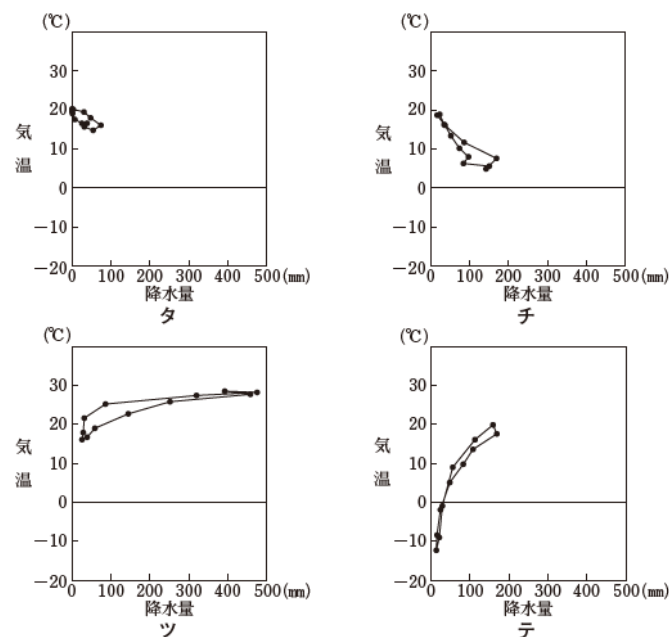


地理B

第1問 問4

事象の背景を論理的に理解できているかを問う問題で、上位層で差がついた

問4 次の図4中のタ～テは、図1中のJ～Mのいずれかの地点における月平均気温と月降水量をハイサーグラフで示したものである。これらのハイサーグラフから読み取れる特徴とその要因を説明した下の文章中の下線部①～④のうちから、**適当でないものを一つ選べ。** 4



気象庁資料により作成。

図 4

大陸の西岸に位置する地点は図1中のJとKであり、これに対応するのがタとチである。どちらも①冬季に亜寒帯（高緯度）低圧帯の影響を受け、降水量が増加していることが読み取れる。このうち緯度が高いのはJであり、Kに比べて②気温の年較差が大きくなる傾向がある。大陸の東岸に位置するのは図1中のLとMであり、これに対応するのがツとテである。どちらも③冬季に亜熱帯（中緯度）高圧帯の影響を受け、降水量が減少していることが読み取れる。Lの緯度は大陸の西岸であれば乾燥帯に相当するが、④低気圧や海からの季節風（モンスーン）の影響で降雨があり、乾燥帯にはなっていない。

第1問 問4

正解率	35.1%
SS75～	85.7%
SS70～75	73.4%
SS65～70	60.5%
SS60～65	47.4%
SS55～60	39.8%
SS50～55	34.3%
SS45～50	29.9%
～SS45	25.8%

2021年度第1回ベネッセ・駿台 大学入学共通テスト模試 「地理B」	
受験者数:	107,913人
平均点:	52.3点
標準偏差:	15.5

地理 B

第1問 問4

事象の背景を論理的に理解できているかを問う問題で、上位層で差がついた

結果分析

ハイサーグラフの特徴と、その背景を考える問題で、特に中位層と上位層で差がつかまりました。

ハイサーグラフから、気温・降水量の特徴を読み取った上で、それぞれのグラフが示す気候の成因や分布について述べた文章の正誤を判断する問題で、グラフから気候区をイメージできる正しい理解(=知識)と、文章で述べられている分布や成因を関連づけられる考察力が求められました。知識、資料読解の技能、背景を考察する力の3つがすべて必要とされたため、この層で差がついたと考えられます。

指導のご提案

断片的な知識は身につけていても、それを具体的な地域に応用したり、逆に模式図など抽象的な概念に応用するまでの力はまだ十分ではないという時期だと思われます。これからの2か月半で、「知識の使い方」を身につけていくためには、実践的な問題演習を重ねる中で、特に誤った設問に対して、「なぜ、そうなるのか」を考える際に、「どこに着目するのか」という視点や、「他と比較して考える」という視点で復習をすすめることが大切です。

また、本問のように、共通テストでは、図やグラフ、表、文章など複数の資料が示され、それを組み合わせて判断する出題の増加が予測されます。上記の観点で、資料を読んでいくことが、資料の着眼点を見つける力の育成につながります。